ほぼ週刊コラム　Partnership論　その２１０

**シリーズ：『米国Partnership税制勉強会』**

**第二十八回勉強会（通年内容は**[**年表rev.9**](http://llc.a.la9.jp/Papers/evolution%20history/evolution%20history%20of%20US%20partnership%20taxation%20rev9.ppt)**参照方）の準備**

**和英混訳（または半訳）は、日本語の助詞（がのにを、てにをは）の威力を利用できる**

20161020 rev.1 齋藤旬

**IR4（第四次産業革命）の和訳作業ファイルrev25（またはfd01）を作成した。**

Shift 22: Designer Beings 156

Shift 23: Neurotechnology 158

今週はこれらを和訳した。遂に一通り完了。最終原稿初版（fd01）とし、当Siteに新設した[「和英混訳の試み」](http://llc.a.la9.jp/WaEi%20KonYaku.htm)コーナーにアップした。このコーナーには、当Siteに既にaccessしお使いのブラウザのcookiesにpassword（皆さんご存じの･･･）を登録してある人だけがaccessできる。

**お分かりだろう、「和訳」と称していたが「和英混訳」または「半訳」と言うことにした**。そして今回、混訳（半訳）を完了してつくづく感じたのは、最新の西洋社会科学用語を表現する日本語語彙不足。「[the publicとpublicの違い](http://llc.a.la9.jp/Papers/Duo%20Sunt/two%20powers%20principles%20revX.pptx)」からもお分かり頂けると思うが、freedomもlibertyも日本語では「自由」、rightもlegitimateも表す漢字には「正」が入るし、sinもguiltも日本語では「罪」となってしまう。あるいは、the publicとpublicの違いを手短に日本語表現できない。これでは最新の西洋社会科学文献を和訳するのはおぼつかない。だから自然と混訳（半訳）になった。

それにこれは古代の日本人が大陸文化を取り入れるとき使った手なのだとも思った。

**古来、辺境の島国ニッポンは文化の進化スピードが遅い**。孤立した豪州大陸で、哺乳類は有袋類までしか進化しないのと同じだ。けれど、日本は大陸に近い。進んだ文化に少し遅れて接することになる。従って「外来語」を取り入れる必要性が高い。自然と日本語には、世界でも独特な助詞（がのにを、てにをは）が発達したのだろう。今回も、この手を使って原語のまま専門用語を取り込めば良いと思った。

**日本語語彙不足を示す具体例として**、今週初め発売された『[第四次産業革命 ダボス会議が予測する未来](https://www.amazon.co.jp/gp/product/4532321115/ref=oh_aui_detailpage_o02_s00?ie=UTF8&psc=1)』から「3.3.1 Governments」の第三段落を原文および拙半訳と比較しよう。

原文：

The digital age undermined many of the barriers that used to protect public authority, rendering governments much less efficient or effective as the governed, or the public, became better informed and increasingly demanding in their expectations. The WikiLeaks saga -- in which a tiny non-state entity confronted a mammoth state -- illustrates the asymmetry of the new power paradigm and the erosion of trust that often comes with it.　　（下線は齋藤付加。）

拙半訳：

つまり[public](http://llc.a.la9.jp/Papers/Duo%20Sunt/two%20powers%20principles%20revX.pptx) authorityをprotectするために使われた隔壁の多くは、the digital ageによって取り除かれた。従ってgovernmentsは、the governed（governされていた者達）つまり[the public](http://llc.a.la9.jp/Papers/Duo%20Sunt/two%20powers%20principles%20revX.pptx)にとって、efficientでもeffectiveでもないものになった。the publicはbetter informedされるようになり、自分自身の欲するものを要求する様になってきた。記憶に新しいThe WikiLeaks saga – ちっぽけなnon-state（非国家）entityがa mammoth国家に立ち向かった事件 – では、新たなpower paradigmには非対称性があるという状況が浮き彫りになり、かつてのpowerの源であったtrustが実は侵蝕されていることも明らかになった。

『[第四次産業革命 ダボス会議が予測する未来](https://www.amazon.co.jp/gp/product/4532321115/ref=oh_aui_detailpage_o02_s00?ie=UTF8&psc=1)』：

　デジタル時代の到来で、公権力を守ってきた多くの障壁は弱体化し、被治者（つまり大衆）が知識を深めて、期待を膨らまし、要求をますます増やすようになるにつれ、政府機関はさらに非効率または非能率的な存在になった。極小の非国家主体が巨大国家と対峙したウィキリークスの一件は、新たなパワーパラダイムの非対称性と、それに付随する信用の低下を示している。　　（下線は齋藤付加。）

　･･･ご覧のように従来の和訳方法ではpublicとthe publicの違いを表せていない。それどころかthe publicを「大衆」と訳してしまい、本書の主題の一つであるempowered peopleの意味を見落としてしまっている。

　見方を変えれば、助詞の威力を使う混訳（半訳）には、古代の日本人が享受した、新概念を手短に取り込む強力な力が備わっている。これを使わない手はない。

**もう一つ、日本語語彙不足を示す具体例としてthe common goodを挙げよう。**原文には三カ所the common goodが使われている。それら三つとも『[第四次産業革命 ダボス会議が予測する未来](https://www.amazon.co.jp/gp/product/4532321115/ref=oh_aui_detailpage_o02_s00?ie=UTF8&psc=1)』は「公益」と翻訳している。これでは、2014年2016年と二回もダボス会議冒頭スピーチを務めたpope Francis（代読Peter Turkson）の努力が水の泡。副題『ダボス会議が予測する未来』を、従来の和訳方法だと表しきれない、と私は強く感じた。

　今週は以上。来週も請うご期待。